



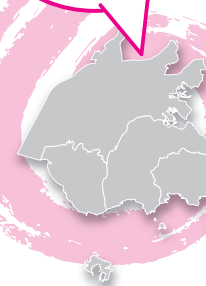
魁勝 巨祈

本名は本多巨祈。浅香山部屋所属。平成7年1月28日生まれの24歳。180センチメートル、148キログラム。左四つが得意。吉良中学校、愛産大三河高校時代は柔道部で活躍。高校卒業後に友綱部屋に入門。26年に独立した親方に伴って部屋を移籍。趣味は読書

にしおの

ふるさとの応援を力に
西尾市出身力士・魁勝

おっ!



「怪我もなく調子はいい。自分の力を出すことだけを考えて稽古している」。吉良町出身の力士・魁勝さんに話を聞いたのは、大阪市で行われる3月場所の直前。「とにかく勝ち越したい」と、力強く意気込みを語ってくれました。

の約10パーセント。さらに横綱や大関などの地位まで上り詰める力士はほんの一握りしかいません。競争が激しい勝負の世界で、魁勝さんは将来有望の若手力士として注目を集めています。

幼い頃から体が大きく、柔道に親しんだ魁勝さん。通っていた吉良柔道教室の当時の教室長、内藤勉さん(吉良町)は「気が優しく、真面目な性格。体の大きさに頼って力任せにならず、基礎からしっかりと練習していた」と懐かしそうに振り返ります。中学時代には大会で優勝するほどの実力を付け、卒業後は強豪の愛産大三河高校(岡崎市)に進学します。県大会で準優勝するなどの活躍が相撲関係者の目に留まり、友綱部屋に入門。現在は元大関魁皇の浅香山親方が創設した浅香山部屋に所属しています。

「柔道と相撲は全く違う競技。最初は序二段(下から2番目の階級)の力士にも勝てなかった」と魁勝さん。相撲の動きに慣れず、なかなか上手いかなかったそうです。しかし、焦ることなく稽古を積み



内藤勉さん(左)、中村充さん

重ね、番付を上げていきます。三段目(下から3番目の階級)で好成績を収めた魁勝さんは、27年の5月場所ですべて幕下に昇進。何度か三段目に降格するものの、30年の1月場所では7戦全勝の成績で見事三段目優勝を飾ります。幕下に復帰し、直近3場所はいずれも勝ち越し。好調を維持して迎える3月場所の番付は「東幕下四枚目」で、十両昇進が近づいてきています。周りは期待して声を掛けてくれるけど、あまり考えないようにしている」と魁勝さん。得意の四つ相撲(相手とまわしを取り合って組む相撲)を磨き、自分の力を出し切ることに集中しています。

将来のスター候補に地元の期待も高まります。昨年10月、市民の有志でつくる「魁勝応援会」が発足。魁勝さんとの交流会や稽古見学、会報誌の配布などを行い、応援の機運を高めています。中村充さん(吉良町)は、自身が経営するデイサービス施設に毎年魁勝さんを招待。「利用者から『頑張れ』と声を掛けられると笑顔で優しく対応してくれる」と魁勝さんの人柄を教え



応援会主催の激励会で軽々と女性を持ち上げる魁勝さん

てくれました。地元の応援に魁勝さんは「うれしいし、頑張ろうと思わせてくれる」と感謝の気持ちを語ります。名古屋で開催される7月場所の前には、毎年必ず西尾に帰郷。4月7日(日)に総合体育館で開催される「大相撲西尾場所」にも、郷土力士として出場します。

憧れの力士は10年以上にわたって大関として活躍し、幕内最高優勝5回を誇る親方。左四つ右上手という絶対的な得意技を持っていた現役時代の親方のように「誰にも負けない得意技を身に付け、勝てる力士になりたい」。目標に近づくため、人としても尊敬する親方の下で日々稽古に励んでいます。「冷静に力を発揮できれば勝てるはず。頑張っしてほしい」と、内藤さんと中村さんはさらなる飛躍に期待を寄せます。「早く十両に昇進して、応援してくれる皆さんに大銀杏姿を見せたい」と抱負を語る魁勝さん。地元の声援を受け、高みを目指して土俵に上がる大きな背中から、これからも目が離せません。

(金原拓矢)

吹き矢で健康と 人の輪づくり

スポーツウエルネス吹矢 矢田教室



スポーツウエルネス吹矢矢田教室は、市内で8番目の吹矢教室として立ち上がりました。メンバーは現在10人。毎月第2・4日曜日に矢田ふれあいセンターで活動しています。

スポーツ吹矢は、初心者でも地区の大会から県大会、全国大会まで、多くの大会に参加でき、上達の目標となる昇段制度もあります。性別を問わず誰でも楽しめるのも魅力です。基本動作は、礼に始まり礼に終わります。①的に向かい一礼 ②構える ③筒を上げる ④息を吐く ⑤息を吸う ⑥吹く ⑦息を整える ⑧的に向かい一礼の一連の動作です。腹式呼吸で行うため、健康の維持と向上に効果が期待できます。

練習は和気あいあいとした雰囲気、終わってから世間話に花が咲きます。たまに開催する食事会も楽しみの一つです。4月14日(日)・28日(日)には無料体験会を行います。興味がある方は、ぜひ気軽にお越しください。生涯スポーツとして、仲間と一緒にスポーツ吹矢を楽しみましょう。

問 高須 (☎090・7603・9945/一色町)

このコーナーに登場してくれるサークル・ボランティア団体を募集しています。詳しくは、秘書広報広聴課広報広聴担当 (☎65・2159) へ。



かえで
小木 曾 楓ちゃん
(室町)

平成29年9月生まれ
歌やダンスが大好きや
んちゃガール☆3人兄
妹仲良く成長してね♡



りょう
渡邊 凌くん
(米津町)

平成29年4月生まれ
周りの人を明るく元氣
にできる優しい子にな
ってね!!



ささ
岡田 桜咲ちゃん
(伊藤四丁目)

平成29年4月生まれ
満開の桜のように誰か
らも愛されるささでい
てね♡ 大スキだよ♡



みなと
中村 湊くん
(寺部町)

平成29年4月生まれ
甘えんぼうの湊くん♡
お兄ちゃんと仲良く元
氣いっぱい育ててね!



ゆい
石倉 結衣ちゃん
(中原町)

平成29年8月生まれ
いつも元氣いっぱい、
おしゃべりが大好きな
ゆいちゃんです☆



まさひと
佐藤 政仁くん
(吉良町)

平成29年4月生まれ
しかしそこでくじけぬ
二男! 健やかに育て
てね。毎日ありがとう☆



ももか
中村 百伽ちゃん
(一色町)

平成29年4月生まれ
お兄ちゃんが大好きな
百伽。ずっと仲良しで
いてね。



たいしゅう
杉浦 平周くん
(上道目記町)

平成29年7月生まれ
笑顔いっぱいこれか
ら毎日を楽しもう!!
大好きだよ。

キ
ツ
ズ
ア
ル
バ
ム

西尾市史ニユース 26

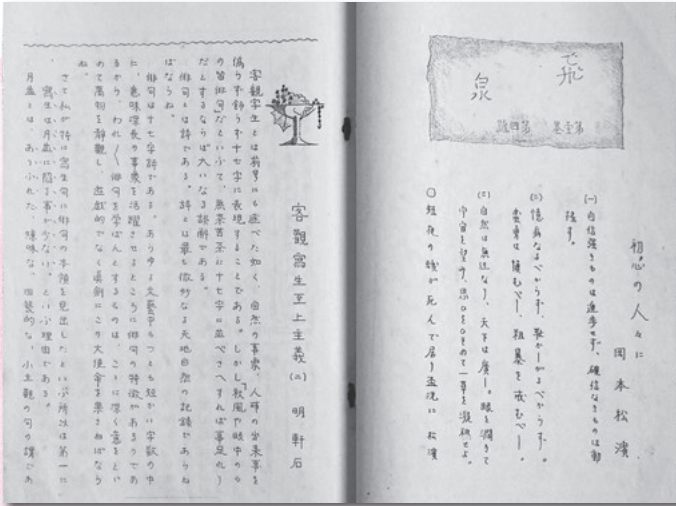
幻の俳句雑誌たち

岩瀬文庫学芸員 神尾愛子

大正時代、西尾に二つの俳句雑誌（俳誌）が誕生しました。円山恵正・長谷瀧北らが刊行した『キラ』のちの『雲母』と、浅井意外・富田うしほらが刊行した『サクラ』（のちの『山鳩』）です。両誌はそれぞれホトトギス派の気鋭の俳人飯田蛇笏、村上鬼城を選者に迎え、全国に読者を持つ俳誌へと成長しました。昭和初期には『若竹』が創刊され、西尾の俳句熱は若者を中心にさらに高まりました。しかし、これらの俳誌は簡易装丁が多いためか、ほとんど現存せず、市史編さん室では情報を探しています。

そんな折に拝借できたのが写真の『飛泉』です。平原村の三浦漱雨が主宰する俳句研究会「飛泉会」の会誌として昭和3年〜7年に刊行されました。創刊号から終刊号までが一つづりで、三浦家に保管されていたものです。ガリ版刷りによる初期の号には、会員が互いに選びあった句や、室村の長谷瀧北と善明村の明軒石による超辛口の選評、軒石や漱雨の俳句論などが掲載され、俳句研究への志の高さと熱気が分かります。一方で

号が進むと、俳句や俳誌刊行を日常生活と両立させる難しさを漱雨が吐露することも多くなり、当時の俳句青年の心情と葛藤を知ることのできる貴重な資料です。



第1巻第4号に掲載された明軒石による論考「客観寫生至上主義」。軒石は善徳寺住職で飛泉会の指導者的役割を担った

関市史編さん室 (☎56・6660/岩瀬文庫内)

にしがま線の

車窓から

西尾市の一番東に位置する駅、名鉄こどもの国駅。この駅から徒歩約5分のところにあるのが、創業約50年の雑貨屋「川口屋」です。懐かしい雰囲気漂う店内には、地域の方の話が響きます。「こどもの国駅は元々洲崎駅という名前だった。当時のガソリンカーでは発車できないこともあったみたい。乗客が列車を押しこともあったと父から聞いた」と店を営む豊田裕さん。自身もこの地域で育ち、通学や通勤で駅を利用していまし



川口屋を営む豊田裕さん(左)と妻の恵子さん(右)

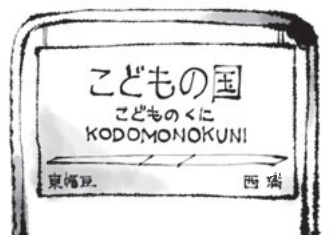
た。

洲崎駅は昭和

11年に開設され、昭和51年に東に400メートルほど離れた現在の位置に移設。同時に「こどもの国駅」に改名されました。こどもの国の開園当時は多くの来園者が電車を利用し、駅周辺はとてにぎやかだったそうです。現在は1日あたりの利用者が約1500人と、名鉄全線の中で最も少ないこどもの国駅。平成19年、駅前に再び活気をと洲崎地区の役員を中心に地域の人々が立ち上がります。駅の壁面をスクリーンにして、映画を上映するイベントを企画。今でも駅前の花壇の手入れをしたり、5月の大型連休には駅前に万国旗を掲げたりと、おもてなしの取り組みで駅を盛り上げています。

こどもの国駅から蒲郡方面に向かうと間もなく、キラキラと光る三河湾が車窓に映ります。遠く望むのは渥美半島。おすすめですよ。

地域の暮らしを支え、人をつなぐ名鉄西尾・蒲郡線(にしがま線)。店や人、モノなど、沿線の魅力を各駅停車でお届けします。



西尾市のデータ

人口



	3月1日現在	前月比
男性	87,460人	+80人
女性	84,918人	-9人
計	172,378人	+71人
世帯数	64,740世帯	+146世帯

交通事故の状況



	人身事故 件数	死傷者	
		死者	死者
2月	41件	48人	0人
31年累計	94件	108人	1人

犯罪発生状況



	刑法犯総数	侵入盗	特殊詐欺
2月	81件	5件	1件
31年累計 (被害総額)	172件	10件	1件 80万円

消防の状況



	火災	救助	救急
2月	9件	5件	543件
31年累計	16件	10件	1190件

今月の表紙

見事に桜が咲き誇る、吉良町の黄金堤です。江戸時代の貞享3(1686)年、吉良上野介義央が村を水害から守ろうと、長さ約180メートル、高さ約4メートルのこの堤防を築いたと伝えられています。後に桜が植えられ、見頃を迎える毎年3月下旬から4月上旬にかけてはライトアップが行われています。

編集雑記

「にしがま線の車窓から」の連載を今号からスタートしました。通学や通勤に利用したなど、名鉄西尾・蒲郡線(にしがま線)に思い出がある方も多いのではないのでしょうか。これまでの取材でも、多くの方がにしがま線の思い出をいきいきと話してくれたのが印象に残っています。2021年以降の存続が約束されていないにしがま線。これからたくさんの人の思いが未来につながれるよう、にしがま線沿線の魅力を広報担当の視点でお届けします。(原田成美)

スクールスマイルショット

School Smile Shot

●八ツ面小学校

2月21日、お世話になって地域の方々を招いて「きらきら集会」が行われました。児童は花束の贈呈やダンスの発表をし、最後は全校で「八ツ面キッズ」を合唱。感謝の気持ちを伝えていました。



●中畑小学校

3月3日、6年生を送る会が開かれました。卒業を控えた6年生を前に、在校生が歌や楽器の演奏などを披露。1年生からは感謝を伝える手紙が6年生に手渡されました。



●幡豆小学校

3月6日にお別れ集会が行われました。6年生への感謝の気持ちを込めて学年ごとに出し物を披露。5年生を中心に在校生全員で準備してきた会は、笑いあり感動ありの思い出に残る会となりました。



【西尾市役所】

URL (パソコン) <http://www.city.nishio.aichi.jp/>
 (携帯電話) <http://www.city.nishio.aichi.jp/mob/>
 (スマートフォン) <http://www.city.nishio.aichi.jp/sp/>

E-mail nishio@city.nishio.lg.jp

- 本 庁 ☎0563・56・2111 (代表)
〒445-8501 西尾市寄住町下田22
- 一色支所 ☎0563・72・7111 (代表)
〒444-0492 西尾市一色町一色東新田8
- 吉良支所 ☎0563・32・1111 (代表)
〒444-0596 西尾市吉良町荻原川畑20
- 幡豆支所 ☎0563・62・5511 (代表)
〒444-0798 西尾市西幡豆町仲田14-2



スマートフォンなどで読み取ると「スマートフォン用西尾市ホームページ」が開覧できます。